

[058] 語文研究表紙奥付等

<http://hdl.handle.net/2324/10209>

出版情報：語文研究. 58, 1984-12-25. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

編集後記

年末匆忙の机辺に第五十八号をおとどけ致します。女性の執筆がめだつのは、教室の現状を如実に物語るものとして、例の如く若手中心の論集ですが、それぞれ精一杯の努力を重ねたものでございます。皆様方の温い御指導をお願い致します。

教室の方は、十月末に定員一杯十八名の進学生を迎え、演習などでは、時に学生が演習室からはみ出しそうな勢です。連日、夜遅くまで何らかの研究会・読書会が開かれているという次第で、先ずは盛況と言えましょう。

そう言えば、迫野先生は今井先生のあとをうけて、早春からソウル外国語大学の客員教授としてお出かけ中、また大学院には、やがて十名にも及ぶ留学生が在籍中というような教室の国際化も、或意味で、やはり発展の一形態かと存じます。なお、前記迫野先生も十二月末には御帰国のはずですし、赴任の後れている第二講座助教教授も、明年四月にはお迎えてできる予定で、数年間にわたった教官の手薄さも、おいおい解消できると存じおります。

本誌の内容がそのような教室の姿を反映しているかどうかは別として、『語文研究』への投稿の量的な寂しさが痛感される昨今です。購読者の増加という事も含めて、切に皆様方の御協力をお願いする次第でございます。

勤労感謝の日に

(編集子)

執筆者紹介

山崎正純	九州大学大学院(修士課程)
安永美恵	九州大学大学院(修士課程)
張瓊玲	九州大学大学院(博士課程)
木部暢子	純真女子短期大学講師
橋口晋作	鹿児島県立短期大学助教
松本常彦	九州大学大学院(修士課程)
海老井英次	九州大学教養部助教

規 定

- 一、投稿は原則として九州大学国語国文学会会員に限るが、それ以外の方に投稿を依頼することもある。
- 二、投稿原稿は四百字詰原稿用紙三十枚内外を一応の規定とし、その際、二枚程度の要旨を添付されたい。
- 三、原稿の採否等については運営編集委員会に一任されたい。
- 四、刊行は年二回(春・秋)を原則とする。
- 五、刊行会費は現在年額維持会員三千円(各号二部配布)、通常会員千五百円(各号一部配布)とする。
- 六、執筆者には別に二部を贈呈し、希望者には抜刷を実費で分ける。
- 七、会員以外の購読者は毎号ごとに誌代を納められたい。